（戦争体験を語る会）

◆語る人：上田毅八郎（うえだ きはちろう）氏　　テーマ：「海没 6 回・最後はマニラ戦」

（概要）

上田毅八郎さんは、大正 9 年生まれ。輸送船の高射砲兵士として、3 年 8 か月間、26 隻の輸送船や便乗船に乗った。北はレイテ・キスカへ。南はジャワ・ガダルカナル・レイテ・マニラなどの激戦地に兵士や物資を送る活動に携わり、6 回の撃沈を体験。常に死と隣り合わせであった。

マニラ戦で利き手の自由を失った。生活の為に左手の訓練をし、戦友の無念を晴らすために輸送船や軍艦の絵を描くようになった。タミヤ模型の箱絵作家を経て、現在世界の海洋船舶画家として名高い。

◆語る人：中野（なかの）　春一（しゅんいち）氏　　テーマ：「ソ連侵攻・生き地獄の日々」

（概要）

中野春一さんは、昭和 4 年生まれ。昭和 10 年、一家で父の赴任地満州国新京（現中国長春）へ渡った。昭和 18 年、奉天（現中国瀋陽）の飛行機部隊に入営。

昭和 20 年 8 月 9 日ソ連参戦後、ソ連の捕虜となった。食糧調達を命じられ軍馬を屠殺したこともある。脱走、捕虜の繰り返しであった。

運よく大連で家族と出会い、昭和 22 年帰国。船大工になり、現在豊橋の匠として、船模型作家として活躍している。

◆語る人：久木村（くきむら）　久（ひさし）さん　　テーマ：「母と兄を凍土に埋めて・北朝鮮からの生還」

（概要）

久木村久さんは、昭和 10 年生まれ。昭和 20 年 1 月、軍医として召集された父が住む北朝鮮の羅南へ一家で渡った。

昭和 20 年 8 月 9 日、怒涛のごとくソ連軍が侵入してきた。父は、戦うために出兵。一家は北朝鮮内を逃げ回った。

昭和 20 年 9 月衰弱の為母死亡。昭和 21 年 2 月発疹チフスで兄死亡。昭和21 年 5 月、38 度線を越え帰国。半年後父帰国。

母と兄への鎮魂の思いが、封印した過去『北朝鮮からの生還　ある 10 歳の少年の引き揚げ記録』を記すきっかけとなった。